

令和6年度中根台中学校区小中一貫教育について

1 中根台中学校区小中一貫教育のテーマ

自立・共生・貢献

2 共通の教育目標

生きる力を身に付けて自立し、自他を尊重し共に支え合い、社会に貢献できる児童生徒の育成

現在の教育の方向性や本学区の児童生徒の実態等を踏まえ、育成を図りたい児童生徒の姿として、「めあてをもち、主体的に学ぶ児童生徒」「自立を意識し、自治活動ができる児童生徒」「他者と関わり、互いの個性やよさなどを尊重し支え合うことができる児童生徒」「地域や社会に進んで関わり貢献できる児童生徒」などがあげられ、それらを端的に表す言葉として、「自立・共生・貢献」をテーマに掲げることにした。「共生（共に生きる）」は、中根台中学校の校訓でもある。

本中学校区では、この目標の実現に向けて、龍の子人づくり学習を核としたシティズンシップ教育を重点的に推進する。

【自立・共生・貢献】

- 「自立」とは、自分以外のものの助け無しで、または支配を受けずに、自分の力で物事ややっていくことである。そのため、「主体性」を大切にして、社会生活に必要な学力、健康・体力、礼節等を身に付けられるようにする。

※ 「主体性」とは、自らの意志や判断に基づいて、自らの責任の下で行動することをいう。「自主性」とは違う。

→児童生徒に求めること

どんなことでも「一人で」ではなく、時には他者の助言を受けながらも、自分（たち）のことは自分（たち）で考え、自分（たち）の力でできるようになる。

- 「共生」とは、様々な違い（国籍、言語、ジェンダー、セクシャリティ、障がい等）を有する人々が、自他それぞれの個性や価値観等を互いに尊重し支え合いながら、ともによりよく生きることである。

※ 自立した個は、他者と依存する関係ができる。ここでの依存とは、他者に寄りかかり、それによって生活が成り立つことではなく、Aという活動を行っているとき、他者にBという活動を任せ、互いが社会（所属する集団）に貢献できる関係をいう。その依存できる関係を「共生」ととらえる。

→児童生徒に求めること

人間尊重の精神や思いやりの心をもって、お互いを尊重し合い、共に支えながら学校や地域をつくっていく行動力が身につく。（支え合う＝協力し合う、分担し合う）

- 「貢献」とは、ある物事や自分が所属する集団のために役立つように尽力することであり、ある対象にとって、有益で役に立つことを意味する。この考えのもと、中根台中学校区内においては、「友達のために」「学級のために」「学校のために」「地域のために」「社会のために」と発達段階を踏まえながら広げていく。そこで、「話し合い活動」「体験活動」「当番活動」「係活動」「清掃活動」「委員会活動」「生徒会活動」「ボランティア活動」等を重視する。

→児童生徒に求めること

「人のために行動する、人のことを思う」という相手を思いやり、優しさの心を持ち、学校の仲間（みんな）、地域に貢献する行動力が身につく。

【シティズンシップ教育】

- 他人を尊重すること、個人の権利と責任、人種・文化の多様性の価値など、社会の中で円滑な人間関係を維持するために必要な能力を身に付け、市民としての資質・能力を育成するための教育のこと。

→児童生徒に求めること

「自立、共生、貢献」に係る取組から、他者と協力しながら、社会の一員として主体的に課題に取り組む姿勢や地域づくりに参加する姿勢（社会参画）が身につく。

「第2次龍ヶ崎市教育プラン for 2023」より

3 部会

- ※ 各部会の計画や成果・課題は、各部会員の授業参観並びに協議をもって検証する。
- ※ 義務教育9か年のカリキュラムを作成した場合でも、研究授業を行い、実践的な研修の場を設ける。

A 豊かな人間性の育成(生徒指導主事・道徳教育推進教師)

- 基本的生活習慣の確立(時を守り・場を清め・礼を正す)
- 所属感、連帯感のある学級づくり
- 実践活動を通じた道徳教育と特別活動の充実
- 特別支援教育・人権教育の充実

めざす姿

- ・自他のよさや違いを認め、かかわりの中で共に支え合いながら、温かい人間関係を築くことができる。
- ・学校や地域への愛着をもち、主体的に貢献できる。

B 確かな学力の育成(教務主任・研究主任)

- 主体的・協働的な学びを育む授業づくり
- ICTや地域人材を活用した学びの充実
- 読書活動の充実
- 家庭と連携した学習習慣づくり

めざす姿

- ・主体的・対話的に学び、互いの立場や考えを尊重しながら高め合うことができる。

C 健やかな体の育成(保健主事・養護教諭・体育主任)

- 発達段階に応じた健康教育の充実
- 学校教育全体を通じた体力づくりの充実
- 体験的な活動を通じた安全教育・防災教育の充実
- 家庭・関係機関と連携した生活習慣づくり

めざす姿

- ・自らの心身の健康管理や体力の向上、安全な生活に進んで取り組むことができる。